



創立者が後世に託した研究課題の探求

モラロジー研究推進プロジェクトリーダー

みやした かずひろ
宮下 和夫

「引き続き研究を必要とする諸項目」

本誌四月号「研究の現場から」において、道徳科学研究所（以下、「道科研」）の令和五年度研究活動方針が述べられています。その中で、「『道徳科学の論文』第三緒言」（新版『道徳科学の論文』①二七〜一三九頁）の第二条で示されている三四項目の「将来モラロジー研究所において引き続き研究を必要とする諸項目」（以下、「三四項目」）の検討を進めていくことに触れています。モラロジー研究推進プロジェクト（以下、「モラプロ」）では、この三四項目の検討を令和五年度から数年かけて推進する予定です。

これら三四項目は、ほぼ百年前の時代状況を踏まえて示されたものです。そのため、二十一世紀の現在の私たちの目線で眺めた時に理解が難しいものも含まれています。そこで、これら三四項目のすべてが、現在

もなお「引き続き研究を必要とする諸項目」に該当するのかどうかを再検討する必要があります。

一方、これらの研究課題群は、当財団の研究活動の原点として示されてきたものですので、道科研の前身である研究部時代より、これら三四項目は常に意識され、先行研究もかなり蓄積されてきています。

廣池博士の未来への洞察を再発見

モラプロでは上記の状況を踏まえて、主に次の二つの視点から三四項目を整理・分析・検討していく予定です。

第一は「三四項目の意図」です。創立者廣池千九郎博士がどのような意図をもってこの三四項目を位置付けていたのかを、その論著・遺稿等から探求して提示できればと考えています。

第二は「三四項目の学問的変遷」です。

これは百年前に存在していた研究課題がそれ以降どのような学問的変遷を経て現在に至っているかを追跡することです。学問分野は常に細分化され、また統廃合されて現在に至っています。「百年前に示された『三四項目』は、どの学問分野でどのように検討・展開されて今に至るのか」を明らかにしたいと考えています。

「三四項目」については、創立以来蓄積された財団内の先行研究も膨大ですし、当然ながら財団外で進展してきた関連諸研究も少なくありません。これら両者を「三四項目」のそれぞれと紐づけながら、その後の研究を総合的に整理して提示できればと考えています。

百年前に示された廣池千九郎博士の未来への深い洞察を再発見し、人類の安心・平和・幸福に向けて私たちが進む道を見出し、いてけるよう取り組んでまいります。